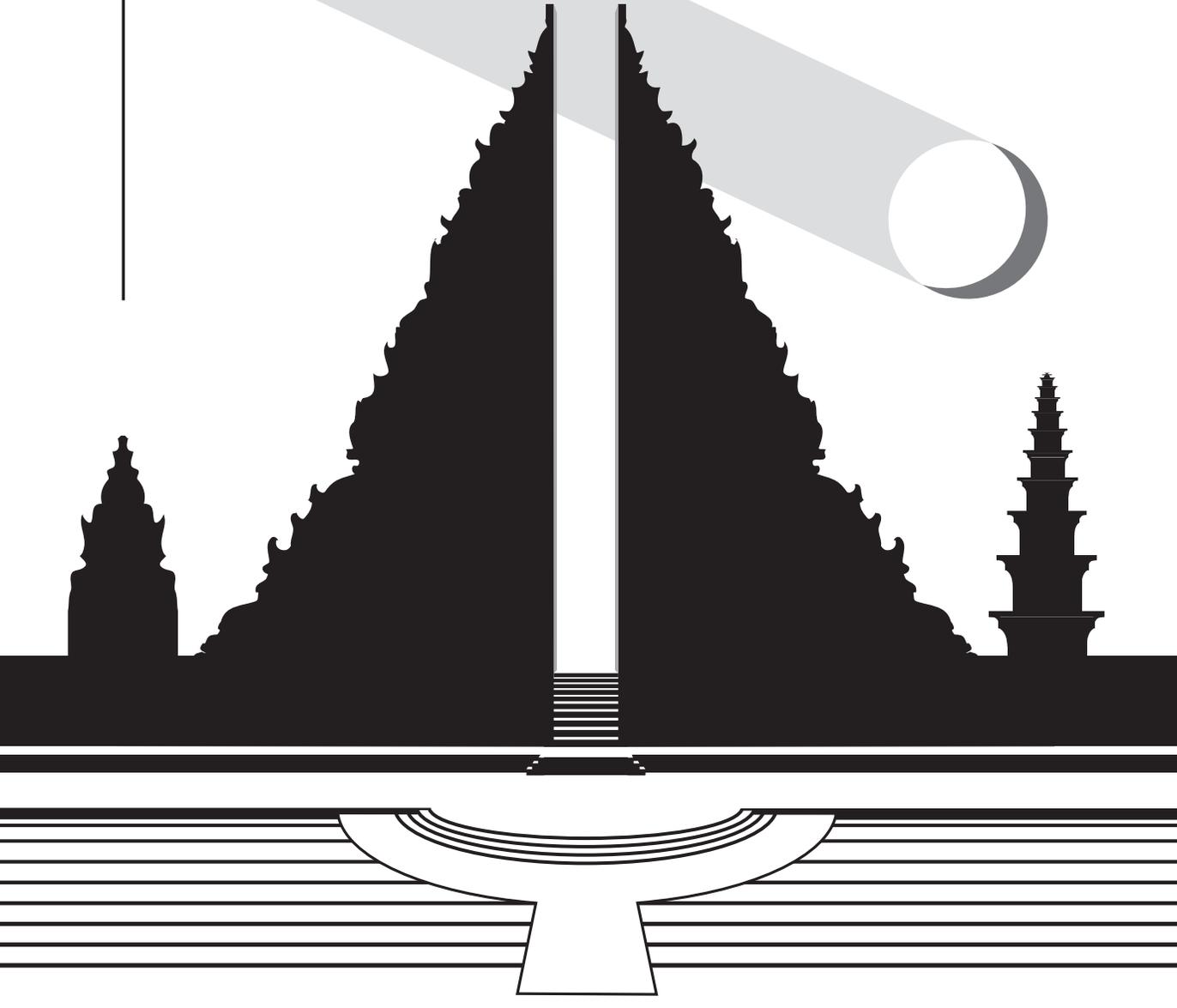




**UBUD**

**VOL.4**



極楽通信  
UBUDY

U・B・U・D ◆ I・N・D・A・H



バリの女性を見ていて感心するのは美しい身のこなしである。頭に物を載せて歩くためか背筋もシャンとしているし、よく働くので身体も引き締まっている。そんな身体で美しさが際立つシーンがいくつかある。踊りの時はもちろん全身が際立つわけだが、それとは別に神様への捧げ物に手をかざして香の煙を操るときに私は見惚れてしまうことがある。この時の手の動きはまるで計算されたスプライン曲線をトレースするように滑らかなのである。いろいろな場所で見ることのできるこの手の動きは、まさに神様に対する畏敬と感謝の念が込められていると感ずるのである。

堀 祐一

2024

Vol. 4 1994 Agustus

# Contents

● Kabar Baru Berita Lama	
懐かしのセゴール-----	4
UBUD 村創設 56 周年記念式典開催-----	5
● Culture Shock	
大工-----	6
● Belajar Tari&Gamelan -4-	
私とガムラン-----	8
● Hidup Baru	
「Oh! Tuhan」の巻-----	9
● Jalan Jalan	
バダからの便り-----	10
● C・O・L・U・M・N	
魂の旅人たちへ-----	13
バリの舞踏-----	14
バリの花-----	15
● UBUD よろず百科	
Rumah Sakit-----	16
● C・O・L・U・M・N	
Ubud に家が建った-----	18
● Pelajaran Bintang	
バリ島・星空散歩道 [2]-----	20
● Tulisan Bersambung 連続エッセイ	
ひとりのワヤン-----	23
● Toko BEST 店	
Bali Trand-----	24
● Warung 味な店	
Babi Guring Ubud-----	24
● Pondok Manis 私の常宿	
ARTJA INN-----	25
● Pesan & Kesan 旅人一声-----	25
● その他のニュース-----	27
● ウブッな人々-----	29
● Studio スタジオ-----	30
● Pengumuman 伝言板-----	30



## 表紙からのメッセージ

BALI の象徴とも言えるこの何とも偉そうな門。この前に立つと何だか負けてしまいます。mata: 目 + hari:1 日 =matahari: 太陽。1 日を見ている目が太陽とはね……。この言葉にも負けてしまいます。

熊谷哲也

## 編集室便り

### ○入稿に関するお願い

編集部では、Macintosh による DTP 作業で版下を作成しています。原稿をお寄せくださる方で Text Data で入稿可能な方は、以下の方法でお願いします。

- ・ Macintosh フォーマットの FD (Text Data)
- ・ MS-Dos フォーマットの FD (Text Data)
- ・ Nifty-Serve の Mail

(宛先 ID/ MHC03203: 菅原 or GCB01162: 堀)  
詳細は、裏表紙にある日本連絡先事務所までお問い合わせください。

### ○裏話

今回は、本業の方が忙しくてパニックでした。イラストを入れられなかったし、レイアウトのツメが甘いんだけど許してつかーさい!

## 懐かしのセゴール

松本 匡央<sup>まさお</sup>

懐かしのドゴールとかなんとか基本的なボケをかましてみましても、ジンバランあたりで「あそこから1940何年に日本軍が上陸したもんじゃ」なんてことを地元の漁師風のおっさんに話しかけられたりもする今日このごろでありまして、はて何か書けばいいのかはなはだ難しく、懐かしの東京ラーメンでしたらよかったかななんて気もしまして、その昔ベモ乗り継いで食べにいったわけなんです、バトブランから市内に行くちっこいのに詰め込まれるのはさすがに無理があるように思い、帰りはそこらへんの白タク拾って帰ろうと、バドブランまで1万5千だから話をつけたあげくに着いたところがクレネンだったりするわけで、ここはひとつ東京ラーメンとついでに吉野屋のウブド出店をスハルト大統領のお嬢様にでも陳情しておいてくださいね。

というわけで、セゴール閉鎖ということですが、ここのところまるっきり行ってなかったわけですし、まあ懐しいといえば、ビールが超ぬるかったことでしょうか。あそこに氷があったかどうか知りませんが、その頃はまだこおりgにはけっこう神経質だったので、どっちにしてももらわなかったとは思いますが。

さて、屋台といえばサテとくるんでしょうが、私の場合あのピーナッツソースがどうにも好きになれず、レストランではソースなしで焼いてもらって、とうがらししょうゆ（アシンロンボク）をつけて食べるわけですし、屋台だとどうしてもすでに焼いてあるのから取って食べるようになってるので、結局のところウブドのセゴールでは食べたことがないのですねー、その昔にサヌールの路上の屋台で食べたことはあるんですが。

じゃあ、何を食べていたんだーといえば、ズバリ「たまご焼」であります。ネギなんかがはいった超油っこいシロモノなんです、付け合わせの漬け物もいけまして、なんだか気にいってしまい10日間ぐらい食べつづけていたわけなんです、私の場合こっちに来ると、午前、昼、午後それぞれビール大ビン2本、夜はアラック飲みほうだい、ベントール（こっちの強いタバコ）吸いほうだいな生活なもんで、日に日に胃腸の調子が悪くなっていくわけで

して、そんなある日、あの油っこさが急に気持が悪くなり、それ以来セゴールにはいかなかったのです。そんな中で思い出といえば、あんまり気のきいた話もなくともうしわけないのですが、いつものようにタマゴ焼を買いにいくと、先に6、7才ぐらいのバリの女の子が並んでいまして、まあ私も注文したわけなんです、なぜか私の方が先に渡されまして、いいのかなと思ひ、その子を見たら、特にそのことを気にしている様子もないようなので、ミンタマーフと2度ほど繰り返しつつ超ぬるいビールを求め右側へと移動したわけなんです、まあ注文した物がちがうとか値段がちがうとかあるのかもしれないですけど、まあ外人がいっぱい来るようになって、どんなふうになっているのか、特に観光地に住んでいて観光ビジネスに絡んでいない人々なんてどうなんでしょうか。逆にいえば、ビジネスに絡んでいる人々とどうつき合うか、どっちにしてもよくわからないですね。

〔特別付録〕

今年4月、ギャニアールのセゴールに行ってバビグリンを食べてきましたので、観光ガイドします。某書によると午前中に行かないと店が閉まるとありますが、私が夜7時に行った所、ちゃんと営業しており、肉も充分残っていました。タバコ屋、雑貨屋、おもちゃ屋、くだもの屋などひとつおりの店があります。バビグリンには内蔵も入っています。基本的にはライスが付いてきます。付け合わせのインドのピクルスに似たものは大変おいしかったです。ウルタンと呼ぶ腸づめもありますが、あまりおいしいとは思いませんでした。ちなみにウルタンをホテルの連中に持って行ってあげたら異常に受けていたが、なにかヒワイな意見でもあるのでしょうか。なお、この店には安全な氷があります。ちなみにビール等は常温です。値段は、ビール大小各1本づつ、グリーンサンド1本、バビグリン9人前（内4人分はライスなし、みやげのため）、ウルタン1人前、氷大量にて2万5千ルピアでした。バリ人が同行しての値段であります。なんだか安すぎるような気もしますが、以上。



## UBUD 村創設 56 周年記念式典開催



1994年7月1日PM7:00、Desa Ubud創設56周年の記念式典がプリ・サレン前の集会場で開催されました。主催はDesa Ubud役場そして各バンジャールの若者達です。Desa Ubudは、13のバンジャールがあることはすでにVol.1で報告いたしました。テーマは「Ubudの社会的・文化的活動の保存。そして村人の親睦をはかる」という素晴らしいものです。式典は子供達のカボール（ウエルカムダンス）で始まりました。お決まりの来賓の挨拶のあと、式典に向けて2週間前から開催されていた16種類の競技の成績発表と表彰式がありました。この間BGMはもちろんガムランの生演奏です。

催し物の開会式は式典にさきがけ6月19日にサッカー広場で行われました。プリ・サレンでお馴染みの踊り子とバレカンジュールの総勢100名の行進を先頭に13バンジャールのプラカードと共に各バンジャールの若者が行進しました。競技は自転車24Kmレース、バレーボール、サッカー、10Kmマラソン、綱引き、その他ゲーム2、クイズゲーム、そしてバレカンジュール、バリ語弁論、バリ語書道、Puraの儀式で歌われる歌の吟唱、供物を美しく作る、飾り物を美しく作る、ペンジョールを美しく作る、前庭を美しく作るなど、新旧おり混ぜての競技大会でした。新しいスポーツで若者の親睦をはかり、またこれまでの伝統と文化を誇りをもって残すために若者が真剣になって取り組む姿と、それらを応援する村人が一丸となった姿は、参加出来ないまでも見学できることを、観光客として大変嬉しく感じました。賞品はトロフィー、賞状の他にゴミ集

めのリヤカーがバンジャールに贈られるのがユニークでした。ゴミ集めと言えばパトカー先導で若者が一日プラスチックを回収していました。来年はこのゴミ集めのパレードのスポンサーに「極楽通信・UBUD」が候補したいものだと考えています。バンジャールあげての競技では、日頃の練習の成果を見せるべく大ハッスルするのであるが、あまりの興奮のため勝負に負けて悔し泣きする若者もいました。個人競技でもバンジャールの名誉をかけての大ハッスルです。表彰式では、地元バンジャールの名前があがる度に大歓声です。式典は表彰式のあと、入賞者の吟唱とTaman・Kajaの若者によるユーモラスな踊りがありました。そしてブリアタンのバンジャールから祝いの言葉とこれもユーモラスなドラマがプレゼントされました。フィナーレは待ちましたのジョゲブンブン。式典は夜12時まで賑やかに続けました。

昨年までは、各バンジャールごとに式典が催されたようですが、今回から13バンジャール合同となり今までにない盛り上がりを見せたようです。今後、回を重ねるごとにいっそう盛り上がりを見せることでしょうか。この村人の一致団結がある限り、UbudはよりUbudらしく素晴らしい発展を見せることでしょうか。彼らの観光客に対する気持ちは私には測り知ることができませんが、必ずいつかは観光客も心から参加できる日が来ることを期待しています。Ubudが末永く、Ubudの人々とそして世界の人々の故郷でありますように希望してやみません。



## 大工・(tukang kayu)



恐怖のカルチャー・ショック漬け！

1991年1月某日、居酒屋・影武者の建築工事が着工された。大工さんはUBUDの中心から3キロ程山側に入ったBr・Tegallantangの村人達である。【1】建築現場には片道1時間程のところを歩いてやって来て、朝8時にはもう仕事を始めている。そして夕方5時には川のマンデー・タイムに間に合うように家路を忙ぐ。棟梁はPamangku(プマンク・寺院での祭礼・儀礼にたずさわる人)である。このPamangkuは今年の3月Br.TegallantangのPura DalemのOdalan(オダラン)でチャロナラン劇でランダを演じ、トランスしてしまったという人である。【2】大工さんといっても左官工事、タイル工事、建具工事、塗装工事、水道工事、造園工事となんでもこなしてしまう器用な人達である。日本も昔はそうであったようだ。

竹で組まれた質素な資材置場がまず造られる。資材が盗まれるということもあるので、この小屋にセキュリティとして若い大工さんが泊まる。盗んだ資材を売りに来る輩もいるそうなので物売りからは買わないようにと注意される。

荒れた畑地にトラックで土が10台分運ばれる。【3】トラックはダンプカーではないので人力によるスコップで土を下ろすという作業になる。そしてクワとバケツを使って土を広げていく。一輪車(建築資材などを運ぶ手押し車)でもあれば助かるのになと思いつながら見学する。土を盛るにしたがって借地の2.5アールの敷地が浮かびあがってくる。借地は10年契約で、16世紀フランスの大予言者ノストラダムスが1999年七月に地球が滅亡するという次の年、2000年まで借りているのであるが最後の一年は無駄になってしまうのでしょうか。敷地は思っていたより狭く感じる。ここに店が建つと考えただけで興奮してくる。ロケーションが素晴らしい。ライス・テラスの向こうにはうっそうとしたヤシの森、その遠くにグヌン・アグンがくっきりと浮かび上がっている。ぬ〜、今日は絶好の工事びよりである。【4】山を見ながらの立ちションベンとしゃれこむには最高だとグヌン・アグンめがけておしっこを放出。後ろのほうで大工さん達がざわざわと私に鋭い視線を向けながら怒っているようである。コンマ数秒の間に私の頭の中にバリ・ヒンドゥーのことが浮か

びあがる。そして背筋が寒くなるのを感じた。グヌン・アグンは聖なる山。恐れ多くも、こんな汚れた行為をしては、罰があたるというものだ。しかし、止めることはできなかった。そのあと私は、わけもない照れ笑いを浮かべながら現場をあとにした。

まず、基礎工事。土台となる位置に穴を掘る。【5】ブロックを平積みにし、セメントで固めていく。セメントの値段が高いせいなのかセメントと砂の割合にセメントが少ないため、なんとなく弱々しい。ブロックも同じようにセメントが少ないため、簡単に割れたり、雨で崩れたりする。バリのひとつとはこれで今まで工事してきたということなので私も納得することにした。水平を出す時は透明のビニール・ホースに水を入れ位置を決める。これは日本と同じだ。垂直もやはり日本と同じように分銅を用いている。【6】寸法を計る時、竹に適当に印を付けて合わせている。これに見かねて私は、日本から持って来たメジャーをもとに竹で1メートルの物差しをつくりだした。後で知ったのだが、物差しはデンバサールで売っていました。UBUDからほとんど出たことのない田舎ものの私は、まだこの時、デンバサールのスーパー・マーケットの存在を知りませんでした。今ではステンレスの物差しまで売っている近代的なスーパー・マーケットです。

材木の切り出しが始まった。ある程度の角材は資材店で売っているのだが、【7】適当な寸法の材木がない時はふちを落として角材を作る。板材から細い角材を作ることもある。この作業が斧で切り落とすのだがたいへんである。日本なら電気丸ノコやカンナで一瞬のうちである。まさに手造りの世界である。ある面ではこれは素晴らしいことと関心する。

墨だしをする際、墨つぼといって、糸に墨をつけ、ピンと指で弾くと真直ぐの線が引ける方法があるのだが、その墨つぼなるものが見つからない。こんどは墨つぼを作ることにした。墨つぼは完成したのだが、どうも墨汁が高価でもったいない。大工さんたちはどうしているのかと見ていると、【8】空缶に墨のようなものを

入れ、糸を浸しズルズルと取り出して同じようにピンとはねる。線は少しぼけるのだが用は足している。この黒い液体はなんと乾電池の含まれているカーボンを水でとかしたものであった。う〜ん、敵もなかなかやるものである。

大工さんが私に見てほしいところがあると言って近づいて来る。【8】いきなり手をにぎる。生まれてこの方握手以外に男性に手を握られたことはない。どう対処してよいのやら戸惑ってしまう。おまけに手をつないで数メートルを歩くのである。あ〜気色悪い。私は誰？私はオカマ？という心境である。バリの人々はこの手をつなぐという行為はなんの不自然も感じない自然の行為のようである。しかしこれだけは私にもできない。

日本の土蔵をイメージした厨房を作り始める。とにかく一月は雨期の真只中。雨がよく降る。休憩場とセキュリティの泊まる建物をまず造ろうと考えているようだ。土蔵の外壁のペンキを塗り始める。【9】下地のセメントがまだ乾かないうちにペンキを塗ってしまう。セメントがしけっているうちにペンキを塗るとあとで剥げ落ちてしまうため「その仕事は最後にしたら」と発言するが聞いてくれない。きっとこれがバリ式なのだともたもや納得する。聞いてくれなかったのは、私のインドネシア語が通じなかったせいなのかもしれません。そうです、もちろん通じなかったせいでしょう。私のインドネシア語の会話力は相変わらず今も上達していません。

現場の休憩時間に大工さん達が「イトー、コーヒー飲むか？」とすすめてくれる。私はバリ・コーヒーが嫌いではないので「ヤァー」とあいまいに答える。言った瞬間【10】コップは少し汚れているかなという感じのドブ川で洗われる。今さら断れない。コーヒーは運ばれ大工さんの好奇な眼にさらされて、私は平然とした顔で、甘くて少々気になるコップではあるが、これが彼らとのコミュニケーションだと信じてコーヒーをすすする。

【11】平面図・パース（建物のスケッチ）を大工さんには渡してあるのですが、彼らはほとんど見ていないようである。図面の見方がわからないのかもしれない。たぶんそうであろう。そのためにその都度話会わなければならない。ある日トイレの壁ができあがっていた。どうも私の思ったようには出来ていない。ここは一步も譲れない、やり直してもらうことにする。「申し訳ないが、やりなおしてください」とお願いすると「やりなおすことはかまわないよ、ティダ・アパ・アパ」と返事がかえってくる。なにがティダ・アパ・アパなのだ、言われたように工事してくれよ。おまえたちはティダ・アパ・アパでも、金を出しているのはこの私だ、それもなけなしの金を。ティダ・アパ・アパではないぞ。材料を損し、

日当を払うのは私だ。しかしこんなティダ・アパ・アパ事件は日常茶飯事である。もう私もすっかり慣れてしまった。私も日本では20年間店舗デザイナーの末席を汚した男。額の血管が破れそうなのをおさえながら、私も「ティダ・アパ・アパ」を連呼。【12】洗面所の手洗いが1メートルの高さの位置に付いている。これで顔や手を洗った時には、手元に水が溢れてしまって困るのではないか。「少しは考えて仕事をしろ」と怒りたい気持を我慢して「少し下げてください、女性だと高すぎて手が洗わずらいでしょう」と優しく、かつ、ひきつった顔で注文する。

【13】ちょっと見て居ない隙に土間のたたきの小石敷はきれいな花模様になってしまう。縁側の敷石は何げなく一つ置いたつもりが、いつのまにか幾つかの石がついて亀の形になったり花の形になったりする。柱や食卓の足などもバリの人の大好きなバリスタイルのデコレーションが施されていく。ありがた迷惑とはこのことか。かといって怒るわけにもいかず、さすが生き仏と言われる私も、涙、涙、涙、じっと我慢の子であった。

【14】井戸を掘る。手掘りで15メートルも掘るのである。これは驚き。職人さんは、15メートルの底に溜まる水深3メートルの中で土を掘っている。眼を真っ赤にして出てくる。本当にごくろうさんでした。感謝、感謝。

こうして6カ月間の忍耐の結果。無事「居酒屋・影武者」は完成したのでありました。

これもすべてバリ・ヒンドゥーの神様のお陰と感謝しております。大工さん、ご苦労さまでした。そして協力して下さった皆さんの人びとに感謝。本当に有難うございました。6カ月の間のカルチャー・ショックはきっとこれだけではないと思いますが、4年の歳月が私の頭脳を少々くたびれさせたようであまり記憶がありません。まあ「ティダ・アパ・アパ」といったところですか。

★注意：【数字】はカルチャー・ショックでブツンした項目です。





## 私とガムラン

きむらよしこ

私がガムランを習おうとしたきっかけって、一体何だったんでしょう。それは多分、とっても大好きな男の子がいるのにつきあい方がわからずに、とりあえず同じクラブに入ってみたといった感じの…言いかねればとっても Bali が大好きなのは確かなのにどうかかわればいいのかわからないので、とりあえずガムランを習ってみることにした、ということなのかなあ。要するにこれと云った大きな理由はなかったのです。ただ、初めてガムランを聴いた時とり肌がたって涙がにじんで来たことは確かです。(これって実は、ガムラン音楽にはまってしまう人の必要最低条件みたいですけど。)

普通、女の子はガムラン演奏ではなく踊りの方に魅力を感じる様です。それ由によく「どうして踊りはやらないの？」という質問を受けます。私には、あの踊りを覚えられる自身がなかったこともあります、あの音の響き、体中、頭中が渦をまく様な響きに魅せられてしまったとでも言いましょうか。

しかし、実際楽器を前にして、自分でたたいてみると、これが私が聴いていたものと同じ楽器なのかと思う程思う様には行きません。メロディーが覚えられない、リズムがおかしい、習っている曲のテープを聴いてもとても自分が習っている曲と同じものとは思えない…。でも、ようやく今になって、曲ののりというものがわかる様になってきたかなあ。

ガンサ（ガムランの楽器のひとつです。てっきんのおぼけの様な、あれです。）を習いはじめてからまだ2週間です。とりあえずなんとか2曲教えてもらった通りにひける様になったのですが、まだまだ奥はとっても深い様です。

Bali のガムランの流れている風景がこよなく好きです。今回はスマララティのアノム宅におじゃましましたが、そこの小さな子供たちが遊びながらに色々な楽器や踊りになじんで行く姿とかは、まさしく Bali の文化や生活を手にとる様に見る思いです。私がガンサを習うことによって、そんな Bali の暮らしに少しでも入って行けることを、今はとっても望んでいます。

## 『Oh! Tuhan』の巻

どうして、こうなってしまったんだろう。と思案してしまふことがある。某空港に行く際、同じ会社のC氏がタクシーに同乗して来た。私は、この仕事が終わって日本に帰れば休暇が待っている。旅行先はまだ未定の、休暇だった。『バリに行ってこい』C氏は、ウブドだの、旅行ルート・宿泊先まで親切にメモにして、そう言った。約30分間の会話。それ以来、彼にはあっていない。それから綿密に、静かに予め用意されていた旅程を踏んでいくかの様に何度目かのバリで、あることに出会った。夜風の中何度度どうしようかと、考えても解決できないことは分かっているながら…それでも考えてしまっていた。バリについての翌朝は忙しい。まずバイクを借りに行く。バック・バックに土産を詰め込んで、お世話になった人、お師匠さん、それから知人のところへと挨拶まわりに行く。ダランのお隣りは朝7時からグランドウッドが大音響で始まるのがお決まりで、(グンデルのテープがかかることはなぜかない。)今日もビートの利いた音で起きた。よしよし、バリの朝だ。けれどバリの朝はこんなに暗かった?しばらく何か変だと思いつつ、遠近感のない風景のまま、左目だけを頼りに鏡の前に立った。その時、『ギャー! …。』と変な声を出してしばし唾然と鏡の自分を見てしまった。右目が鬼の様に腫れ上がっている。目が見えないのもそのためだった。人生何度か『ああ、神様…!』とつぶやいてしまうこともある。そうだ、ここはバリ島だ。『Oh! Tuhan』といたら、バリの神様も助けてくれるだろうか。実は、半年位前には左手が腫れてしまっている。原因不明で、手首から指先までそれは見事にキャッチャーミットの様に、はちきれそうになってしまった。バリについてゆっくり体を休めて目覚めた翌朝だ。今回もその、『翌朝』で、顔の右半分、ちょうど半分だけがなぜか又、腫れた。口も半分、鼻も半分、右手で異なる顔を隠しながら宿のおばさんのところへよたよた走った。車で五分位の西洋医学を修めた医者のもとへ宿のおじさんが、最近買ったばかりの車を飛ばす。どうせその途中で、知り合いに当然のことながら会

うわけでいくら顔を隠したところで、みんなの知るところとなるのは時間の問題だ。うわさの種にされてしまう。医者は虫さされの跡を捜したが、虫さされではないことは分かったらしい。結局、確かな原因は分からない。大ざっぱに薬棚から薬を取って渡され、支払をすませた。お金の無駄だと、内心思いつつ。

ずいぶん田舎までバイクで来たものだ。友人に連れられてB村のA氏の家につれて来られた。軒先には何人もの人が腰をおろして世間話をしている。固い木でできたベットの上でうつぶせになりながら、どうしてこうなったのだろうかと思いを巡らし始めたが、それどころではない。このマッサージは拷問に近い。A氏は手で皮膚にさわるようにしかマッサージをしていないと友人は心配そうに白いタイルばりのテラスに座っている。痛みを我慢できなくてうつぶせ状態でベッド・ボードの格子を手でつかみ、『痛い、痛い。』と涙を流して、我慢するしかなかった。20、30分たっただろうか。両手は格子の跡がはっきりついている。ベットからずり落ちるよう下りて、そのまま一時間位寝入ってしまう。ぼんやりと目覚めてから、A氏が赤い透明の液が入った小さなグラスをもって来て飲むように差し出された。アルコールの強い匂いで目がしっかり覚める。A氏の言うことには、どうやら私は病人ということらしい。そして、この『薬』を飲み治療に通えば治るといわれた。お酒は飲めないし、ウブドまでバイクで戻るのに、これじゃ飲酒運転だ。ましてや宿のおじさんはポリシだというのに…。『Oh! Tuhan』とこれまで何回言っただろう。それでも、ぐっと一気に飲みほした。よくよく考えてみれば、ガムランの練習にバリに来ていた訳で、トランスとか呪術などには絶対足を踏み入れないと誓っていた。ところが、何とA氏はバリアンだったのです。

良くないことは続くと言われますが、続きのお話は次回に…

Om Santi Santi Santi Om …

バダからの便り

# Jalan-jalan

Rangin Sembada

「インドネシアにはテレビがありますか?」とよくみんなに聞かれたのは12年前の事でした。僕はいつも笑いながら「ありません、僕が日本に泳いできたくらいですから」と答えたものです。その時の僕は、日本語をまったく話せませんでした。インドネシアで覚えた日本語の単語は"ありがとう"&"すみません"の二つでその使い方もまったくわかりませんでした。ある日、朝の満員電車に乗りました。缶詰のようにつめつめにされた電車の中で人の足を踏んでしまいました。その時僕は思わず「ありがとう」と言っていました。相手の人は目が丸くなって、ぶつぶつ言っていました。

それから12年がたちました。日焼けで小麦色になったToplessの女性の姿を、目の保養と見つめている時、横から日本語で「マッサージはいかがですか?」あらまあ…。

I am alien・I am Legal aliem、Stingの詩をまねた訳ではない、事実だ!そんな僕が「極楽通信・UBUD」に文章を書くことになったのだが、さて何を書こうか結構悩んでしまいました。みんながBALIはどうのこうのUBUDはなんやかんやとインドネシア人の僕より詳しく書いていた、偉い!タイトルの『jalan-jalan』の意味はみんなもよくご存知だと思います。この便りは僕のジャワへのjalan-jalanの話です。



日の出がFerryから見えてきた。明るくなり始めた空は素晴らしい色使いである。この大きな自然に感謝します。Ferryは子供の頃はじめてバリに来た時と変わらない。ゆっくり渡り、なかなか入港できない。この僕のjalan-jalanがtame tunnelのようになっ

てきた。Banywangiに入った。時も日もゆっくりと流れている。ちょうど金曜日でMasjid(イスラームの寺)でお祈りする男達がめだちます。ジャワ島はイスラームが多い。イスラームの男達は昼に仕事を忘れてMasjitに集まります。インドネシア語の曜日はアラビア語から発生しました。MingguはAhadとも言い、意味は一または一日目。Seninはイスナエニからとって意味は、二または二日目。Selasaはスラワサからとって、意味は三。sabutuまですべて数字を表わす意味です。しかし、金曜日のJumatだけは意味が違います。ジャムアーからとって、集まるという意味で、みんなが金曜日にMasjitに集まることを意味します。ここジャワ島ではバリ島で見かけるPURAをみつけることができません。そのかわりにMasajidをあちこちでみかけることとなります。冗談でMasajidはイスラームのホテルとよく言われます。それは泊まることの無い旅人達がよくMasajidに泊まるからである。Masajidは日本の寺のような役割をもっています。日本でも昔は旅人達がよく寺で泊まりました。そして時を知らせるのも寺の役目でした。時という時が日に寺と書くことでわかります。Masajidも同じように、祈りの時間に合わせて一日の時を知らせます。まだ時計をもっていない頃、祈りの時間を時計がわりにしていました。ジャワでは今もそうしています。「Magrib(夕方の祈り)の後、あなたの家に行くので待っていてください」と約束する人がいます。このMagribの時間はPM:6時~PM:7時30分までで、何時になるかわからないがそのうちに来るという時間である。たぶんこれが日本人にとってインド

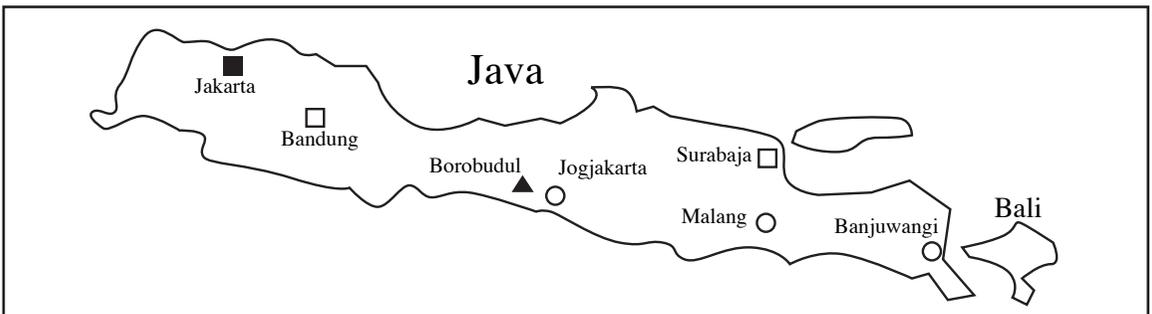
ネシア人の Jam karet なのかもしれません。

旅はそのままジャワの北側に進みます。ジャワ島の北側の風景は乾いている。水不足という感じの町の雰囲気は面白い。古い建物に汚い壁の色。いま日本で流行のサンタフェ風である。オランダ人が建てた高い天井の建物に中国人が住んで商売をしている。こういう田舎で住んでいる中国人の商人達は代々から住んでいる。彼らは大きな町で住んでいる中国人とは違って現地の人々と仲良く暮らしています。彼らは現地の人と結婚し、新人類を産んで、中国から持ってきた文化と現地の文化とを混ぜ合わせて、新しい文化を作りだし暮らしています。このような光景は現地の人と中国人の間だけではありません。アラビア人やインドとの間にも同じようにあります。これは北側の町が港町であるというお陰ともいえます。インドネシアにはたくさんの民族があり、彼らもその数を増やし、そして民族同士の差別にかかわらず、彼らは肌の色や顔が違って同じ文化と習慣の中で仲良く生活しています。これこそ Bhinneka Tunggal Ika・北側の文化とも言えます。

Mojikerto から北側を後にして Jogjakarta を目標にしました。バリ島で見慣れたものでここジャワ島で見かけないものに犬があります。いつもバリで犬に文句を言うてうさをはらしていた僕は、文句を言う犬がいなくて、とても Stress になってしまいました。途中メッカから巡礼帰りを迎える人達にたくさん会いました。イスラームでは生きていうちに一度はメッカに巡礼をしなければならぬのです。これを Naik Haji といいます。巡礼して Haji になりそれを自分の名前の前に付けます。たとえばメッカに行く前の名前が Panjil とすると、naik Haji をした人は Haji Panjil という名前になります。メッカで巡礼する時に Ka Bah を何回も回らないといけぬから回教 (イスラーム) という字が回る宗教と書くのかもしれません。僕の子供の頃、Haji をした人達はただの人ではありませんでした。みんなから尊敬

され、子供達には怖がられてとても凄惨な存在でした。僕もよくお母さんに「いたずらしたら、Haji にいいつけますよ」と脅かされたものでした。その時の子供にとっては医者や警察のような怖い存在でした。Haji はイスラームの教えの一つです。生きているうちに必ず一度は Naik Haji をするように教えられますが、そのあとに余裕があればということも教えられません。お陰で無理をして Naik Haji をする人達もいるのです。自分の持っている土地を売ったり、借金をしてまでも行くので、帰ってきて自分の住むところもなく借金地獄になってしまう人もいます。僕はイスラームがどうのこうのというつもりはありません。インドネシア語で Dosa という言葉があります、日本語で罪のようなものです。Dosa は人間関係の罪ではありません。これは人間と神との関係の罪なのです。Dosa には二つのことが関わっています。それは Wajib と Haram といいます。Wajib はしなければならないこと、これをしないと Dosa になるのです。そして haram はしてはいけないこと、これをすると Dosa になるのです。たとえば一日 5 回祈りするのは Wajib で、豚を食べるのは haram なのです。みんながこの Dosa を怖がり、Dosa にならないよう無理をしてしまうことも多いのです。僕はこういう無理をする巡礼こそ Dosa ではないかと思えます。なぜかと言うと無理をするのは Haram の一つであるからです。こういう教えを間違いとか勘違いの教えがずっと続いています。信じられないかと思いますが、おおくのインドネシアのイスラーム教徒達はコーランが読めても、意味がまったくわからないというのが事実です。それはコーランの読み方は教えられてもアラビア語を教えられていないからです。

Jogjakarta は日本の京都のよう。古くて歴史がある町の感じ。僕は中学生の頃、絵の勉強のため 3 年間この町に住んでいました。その頃の Jogja はあまり変化がないように感じます、昔の友達の家に SILATURAHMI (人間関係の縁を守るため、お互い



に訪ね会う)をしました。そして中学校の頃の思い出話をしました。僕のJogjaに行くパターンは、まずBorobudurから朝日を見る。いろんな素晴らしい朝日をあちこちで見ましたが、Borobudurから見下ろす朝日は一番だと思います。みなさんも一度は試してみてください。太陽が足元から昇り、そして霧にFilterされた光りがRainbowとなり、とても感動的な朝日です。そのあとはBorobudurのすぐ近くの湧き水で泳ぐ。水が冷たくて、きれいで、そのまま飲みます。小さな魚がたくさん泳いでいて、僕の肌に残る汚れをとってくれる感触は魚にマッサージされているようです。お尻の穴に指を詰めないと、そこにも入るからたまらない。

爽やかな朝に新鮮な体で旅は西に続く。今は米の収穫の時期で田で働く人々の姿も何だか光っている。子供達はワイワイしながら走りまわる。こういう時期はたいいてい結婚する時期にもあたる。途中でその光景にも出会った。インドネシアにはたくさんの民族があるが、共通するものが一つある。それは結婚式にNanggapすることである。Nanggapとは踊りやWayangをよんでパフォーマンスすることである。これは村人の楽しみの一つでもあります。僕も子供の頃、よくWayangを結婚式で見ました。僕の大好きな席はDalang(人形使い・語り手)の横です。まだ子供の僕は一晩中やっているWayangを途中で寝てしまい、起きたら誰もいないということがよくありました。このパフォーマンスをする人は、他の村から呼ぶこともあるが、たいいていはその村の人達である。Nanggapは結婚する人のお披露目の場所である。Nanggapはインドネシアの中のKasenian rakyat(民家アート)の一つでもありましたが、他のTradisionalアートと同じように、モダン・アートに立場を譲ってしまいました。最近ではVideoや映画が踊りやWayangに変わり、Nanggapされます。最近の温度の上昇や水不足もその原因の一つです。昔と同じ結果をもたらすための彼らの労働は、労働時間を昔より増やさなくてはなりません。おかげで踊りやWayangをする時間がなくなり、そして子供達に教える時間もなくなってしまったというわけです。このなくなりかけているKesenian rakyatはインドネシアの文化にとって非常事態といったところです。自然の変化となくなりかけているKesenian rakyatは、卵が先か鶏が先かといった問題と似ている。僕はこれに対して何かをしなればと考えています。きっと彼らも踊りたいだろう。

昼ご飯のあと、西ジャワに入る。ここはPasundanとも言いSunda族が住むところ。Sunda族はプライドが高いとして有名である。彼らは同じジャワ島に住んでも、自分のことはジャワ人ではないSunda人だと言いきる。これには歴史がある。昔、Majapahit王国の時代にGajah mada将軍が住んでおりました。彼はNusantara(今のインドネシアからタイまで)が一つになるまで、美味しいものやぜいたくなものは欲しがりませんと誓いました。ところがNusantaraを一つにするためにはPasundan王国が邪魔になりました。戦争に負けないためにGajah mada将軍はある作戦を考えました。それはMajapahit王をPasunda姫と結婚させることでした。強い国のMajapahit王国に断ることのできないPasundan王は姫の結婚を受けました。結婚式はMajapahit王宮で行なうことになり、何も知らないPasundan王一家はMajapahitに向かって出発したのでありました。そしてBubat村で待ち伏せているMajapahit軍によってPasundan王の一家は全滅したのでした。これはPerang bubat(Bubat戦争)という有名な歴史です。それからというものSunda人はジャワ人に恨みを持っています。BandungにはGajamada通りという通りはありません。Sunda族の音楽は日本の民族音楽によく似ている。太鼓、笛、琴など使われている楽器も似ているリズムも似ている。Sunda音楽は日本人にとって聞きやすいと僕は思います。もしかしたらルーツが同じなのかもしれない。そんなところに興味が魅かれ今研究をしているところです。

Bandungは昔ジャワのバリとも言われた美しい町でしたが、今は世界一交通の便のややこしい町になってしまいました。BandungのうえにCiaterという温泉の出る町があります。そこで朝日を望みながら温泉につき、コーヒーを飲んで体を休めた。

ここで暫く旅を休憩することにしました。続きは次回と言うことで、みなさん飽きずに読んでください。

Jalan  
Jalan

最近バリを訪れる人の中に、精神世界に興味をもつ人が多くなっている。これは旅行業者の「神々の島・バリ」という宣伝に乗せられてやって来る訳でもないらしい。やはり「金満国日本」に住む我々は、金で買えないものは恋だけではないということに、やっと気づきかけたみたいだ。

精神世界に興味をもつ人は、遅かれ早かれ瞑想というコトバに遭遇する。ではこの瞑想とはいったいなんだろう。独断と偏見で（マインドがある限りこうならざるをえないのだが）瞑想とはなにかを考察してみたい。

「内側の世界」を探求するものにとっての、最終的な目的を「悟り」（あるいは解脱、光明、サマーディ好きな名前でご覧ください）とするならば、「悟り」に至るには、たくさんの道があるが、大きく分けると三つの道があるといわれる。一番目は身体を通して「悟り」に至る道、ヨガがその代表格だ。次はハートを通して「悟り」に行き着く道、これは祈りを用いるキリスト教などの宗教だ。そして最後が知性を通して「悟り」へと至る「瞑想の道」だ。それはちょうど、山登りをするとき、山頂に至るには、いくつもの登山道があるのに似ている。しかし、数ある道のなかで、多くの人々を「悟りの岸」へと導いた道は瞑想をおいて右にでるものは無い。

瞑想と言うと、日本人はすぐに禅を思い浮かべるが、禅というコトバは、瞑想を意味するサンスクリット語の dhyana という語から派生している。

dhyana が中国に渡り chan となり、それが日本に伝来して禅となった訳だ。瞑想は、英語では meditation と訳されるが、何かを熟考するといった意味合いが強く、どうも適切な用語ではない。

では瞑想とはいったいなんだろう？一言で言えば、無心の状態、あるいは宇宙と一体になった状態と定義できるだろう。賢明な読者なら、もうお解かりになるだろうが、世の中で瞑想と言っているのは、瞑想状態に至るための方法（メソッド）；瞑想法のことなのだ。だから「瞑想をしょっと！」と言うときは、変てこな言い回しをしていることになる。なぜならば、瞑想とは、起こるなにかであり、することはできないからである。人が、なにかをするときには、必ずそこに主体があり、無心の状態ではないからだ。まあ難しい話はこれぐらいにして、具体的に「瞑

想」をしようと思っている人に役立つ話をすることにしよう。

まずひと口に「瞑想」といっても、世の中には数多く「瞑想」が流布しているが、その多くは単なるイメージネーションの遊びや、マインド・コントロールなどを「瞑想」と呼んでいるものが多い。読者の方は、自らを「悟り」へ導いてくれないメソッドは「瞑想」とは言えないことを覚えておいていただきたい。しかし現代人に、いきなり座禅をしろといっても大変難しい。高度に管理化された社会の弊害により、肉体は疲れ、精神はストレスでいっぱいの状態なので、一時間なにもしないで座っているといても無理な話だ。そこでまず、身体をほぐしたり、心の緊張をとったりすることが必要になってくる。幸いにも現代人が、すんなりと入ってゆける瞑想法がある。それはインドの和尚という人が考案したもので、音楽を使って身体をゆすったり、ジャンプしたり、踊ったりしているうち緊張が解けてきて、すんなりと瞑想に入ってゆけるものだ。

また「瞑想」をする上での準備を整えるものとして、セラピーというものがある。セラピーは、大きく分けると、身体に働きかけるもの、心に働きかけるもの、思考に働きかけるものがある。身体に働きかけるものとしては、マッサージ、リバランシングなどがあり、心に働きかけるものには、プライマル、ケシュタルトなどのセラピーがある。そして、思考に働きかけるものとしては論理療法や神経言語プログラミング（NLP）などがある。ここで言うセラピーとは、あくまで瞑想に導くための準備としてのものであり、世の中一般に行われている自己変革セミナーとは、別のものであることをお断りしておきたい。つまり「瞑想」とセラピーの関係は、セラピーはあくまでも「瞑想」をするための準備であり橋渡しであるということだ。

さあみなさん、ウブドの静かな環境の中で「瞑想」をしてみませんか！

瞑想の助けになる本：

「瞑想 祝祭の芸術」；バグワン・シュリ・ラジニーシ著 めるくまー社

「新瞑想法入門」；和尚著 瞑想社

「精神療法と瞑想」；宝島編集部編 JICC 出版局

# バリの舞踏

## Tarian Tradisi Bali (Topeng Monyer)



バリの舞踏は、神々とバリ・ヒンドゥーの人びとに娯楽としての楽しさと宗教儀礼にもとづいて考えられています。このコーナーではUBUDのあちこちで行われている観光客向けのパフォーマンス・ショーではほとんど見られることができない踊りを取り上げていきたいと思っています。今回紹介する Topeng Monyer は神々と人びとを喜ばせるために即興的に踊ることを許されている踊りです。Topeng とは Musk= 仮面のことです。そして仮面をつけて踊る踊りを総称して Tari・Topeng = Musk Dance とよんでいます。Topeng・Monyer の踊りの原形と言われるものは、年寄りの動作を表現している

Topeng・Tua と呼ばれる踊りと、座るポジションで優雅に踊る、Tabanan 出身の天才的踊り手マリオ(Mario)によって創作された Kebyar・Duduk と呼ばれる踊りの2種類からアレンジされた踊りだそうです。この踊りは男性が一人で演じます。幕の裏手で椅子に座った姿勢から踊りは始まります。イントロの部分で幕を揺すり、観客の視線を注目させます。おもむろに幕を開け、座った姿勢で踊り始めます。そして立ち上がり踊りは続きます。踊り手はガムランとゴングの音にあわせて軽快にかつ流れるように、そして時には力強く踊ります。男性がいろいろいしくさでユーモアたっぷりに踊る面白いキャラクターの踊りです。踊りは見ている人びとを思わず笑いの渦に引き込みます。もちろんそれは、踊り手が意識的に演じているのです。

コスチュームは通常の Topeng の踊りに使われる衣装と、Kebyar の踊りに使われる [Destar] と呼ばれる王冠のようなかぶりものをします。そしてキパス(扇子)。もちろん Topeng をします。いつかあなたもこの踊りをどこかのオダランで出会うことがあると思います。その時はきっと思わず吹き出してしまうことでしょう。

■写真の踊り手は、居酒屋・影武者のスタッフ、伊藤氏の勇士です。



# バリの花

Bunga khas Bali (Tunjung)



バリの花は神秘的だ！熱帯の国のせいなのか大胆な姿の花が多い。そして可憐で優雅な花もある。どちらもバリらしい美しさをかもし出している。そのなかでもバリ語で Tunjung と呼ばれる花は、あなたを一目惚れさせてしまうほど美しくて魅惑的です。水面に荘厳に広げられた花卉の姿は見るものを虜にしてしまうほど不思議な魔力をもっています。それもそのはず、この花の名前は Water・Lily (英語名)、インドネシア語名 Teratai と言われる睡蓮(すいれん)の花なのです。バリの人びとにはこの Tunjung の花を見ただけで、体と心に安らぎをもたらしてくれるという高貴な信仰の花なのです。そしてバラの花が愛をイメージすると同じようにこの花も愛をイメージしています。バリ・ヒンドゥーの神・学問と芸術の神、デウィ・サラスワティが学問を探求するに必要な忍耐力を会得するために、この花の上に座っているという描写をよくみうけます。デウィ・サラスワティが見守っているという姿で咲いていると信じている、バリ・ヒンドゥーにとって必要な花なのです。

Tunjung は多年草水草で浅い池や沼に育ちます。現地で取材にあたった I 氏の報告によりますと、パワーを秘めた花なので互いに強い影響力があるため、ほかの花との間隔をおいて咲きます。鉛筆ほど

の細さで長い茎にささえられて、花は 27 の花卉をともなってたった一輪だけ咲きます。水面に浮く葉は直径 30 cm 弱の葉を数枚浮かせています。一つの根に 10 ぐらいの花が咲き、数回咲くことを繰り返して枯れてしまいます。夜咲く花のようで日中は緑色のつぼみしか見ることができません。開き始めるのは、陽も落ち始める頃からで、夕闇のなかに月あかりに美しく浮かびあがる姿はまさに極楽浄土といったところ。翌朝の日差しが強くなるころには閉じ始めます。暑さには少しにあわないほど可憐な花です。花の色は、白、赤、ピンク、黄、青とあります。雑草のように生命力があり、枯れた花の種から幾度となくよみがえって咲きます。

そうそうこのパワーを秘めた花は、薬草として使われていたそうです。花か、茎か、はたまた根かさだかではありませんが、病気の治療に使われていたそうです。バリの薬草については、又の機会に詳しく調べることにいたしましょう。

UBUD の JL : モンキー・フォレストにあるお店に本物そっくりのウッド・カービングあります。あなたの部屋にひきつめて瞑想にふけてみてはいいかですか…?! きっとお茶目な桃源郷が見えることと思います。

## UBUD よろず百科

### Rumah Sakit



今回は観光客がもっとも心配する病気について考えてみました。そして UBUD にどんな病院があるかを調べてみました。インドネシア語の Rumah (住宅)・Sakit (病気) で病院という言葉になります。UBUD にも西洋医学的な近代医学が浸透し、現在ではたくさんの病院があります。24 時間体制の病院もありなにも心配することはないようです。

バリの人びと（ここで書かれるバリの人びとは、バリ・ヒンドゥーを信仰している人のことを意味します。）の病気に対する考えかたは、今の私達日本人の考え方とはかなりの違いがあるようです。バリの人びとは病気はほかのいろいろな不幸、例えば、突発事故、農作物の不作、家族の死、失業などと同じと考えているようです。そしてその不幸の原因は、バリ・ヒンドゥーの神聖なものをけがしたり、たいせつな日に供物をつくらなかったことが原因となり、邪悪なものがとりついたと考えているようです。その原因を知りつゝのぞくためにバリの人びとはバリアン (Balian) のところにでかけます。病気の時はどうするのかと数人のバリ人に聞いてみました。たいていの人、まずバリの伝統的な家庭療法をしますと言います。それでよくならない時は薬局で薬を買うそうです。それでも治らない時には病院へ行くそうです。しかし、病院に入院中も医者には内緒にして患者の家族が Balian の処方をする薬や家庭で調合した伝統的な薬やジャム (Jamu) を飲ませることがあるそうです。私のよく知っているバリ人は、病気の時に病院に行かずまず Balian のところにでかけるそうです。そこで次にバリの人びとが西洋医学が入る以前からかわってきた Balian について記してみました。



内科	: Penyakit Dalam
外科	: Ahli Saral
産科. 婦人科	: Bidan, Kebidanan, Kandungan
小児科	: Spesialis Anak
眼科	: Spesialis Mata
歯科	: Spesialis Gigi
耳鼻咽喉科	: T. HT
皮膚科. 性病科	: Kulit & Kelamin
整形外科	: Bedah Plastik
精神科	: Ahli Saraf
一般診療所	: Umum

### ○ APOTIK

Balian ; インドネシア語で Dukun と言います。辞書には旧式の医者・まじないによる治療師と書かれています。Balian と一口にいても、いろいろと種類があるようです。そして Balian のすべてが病気を治せるわけではないようです。次に Balian の種類と内容を記してみました。

1. Balian usada ---- 始めにマントラ (Mantra ; 不思議な力を持った呪文) を唱え、そしていろいろな生草を使用して治療をします。魔術的な道具を使い、嫉妬や怒りそして悲哀を相手にうえつけることができます。

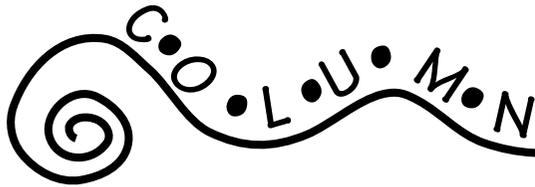


2. Balian manakan -- 助産婦
3. Balian tenun ----- 占い師。ロンタル (Lontar; ロンタル・ヤシの葉に書かれた古文書) の教えをもとにして、消失した物質のありかを告げます。
4. Balian taksu ----- a) 小さな子供にのりうつり、誰の生まれ変わりかを告げます。b) 子供が病気の時、誰がそうしたかを告げます。c) 死亡した人が Balian にのりうつり、隠された財産などを告げます。
5. Balian éédan ----- 神がのりうつり、神のお告げを説明します。
6. Balian sesonténg - 許されない結婚の時、結婚する二人に隠れた場所に招かれ、神にたいする供物を作ります。

以上の6種の Balian があると聞きました。一人の Balian がいくつかの職務を兼ねることがあると言われている。Balian 以外にプダンド (Pedanda; ブラフマノ司祭)、プマンク (Pemangku) にも特異な能力を持った人が多いようです。私が目撃したのものは、プマンクに神がのりうつり、村のこれからのまつりごとについて口伝えられていました。

UBUD には Balian は一人もいないと地元の人は言っています。

UBUD 近辺には KUTUH に一人、PENGOSEKAN に一人、Balian がいると聞いています。PENGOSEKAN の Balian は宗教人類学の中沢新一氏が師事したと言われている Balian です。会いたい人は、Painter & Wood Carving・Mr. Ketut Liyer (Medicine Man) をお訪ねください。彼が Black Magician か White Magician かは分かりませんが、くれぐれも Black Magic と病気には気を付けてください。



## Ubud に家が建った

国井周子

ほんとうに Ubud に家が建ったのです。私達の夢は、その家から次へ次へとふくらんでいっています。

まだほんの2年前のこと、'92年の5月末に、私ははじめてひとりで Ubud へやってきました。10数年前に会社の旅行で GUAM へ言った以外には海外旅行について何も知らない私で、インドネシア語どころか英語もひどいものでした。よく行って帰ってきたなあという感じなのですが、今ではその時に Ubud が私を呼んでくれたものと信じ、その天の声に感謝しています。そのひとり旅珍道中の中で、たいへんにお世話になった3人の男性がいました。そのひとりが、今回私達の家を建てさせてくれた土地の大家である Bahula 氏でした。そして「モモタロウ、バリ日記」「Ubud の花嫁」のジエロ、チャンドラワティーさんのご主人の Cok 氏。この時彼はまだ独身でした。そしてそして、かの有名な影武者の伊藤氏だったのです。この3人との出会いがあって、はじまりはじまりとなるのです。

誰がみてもボーとしている性格の私とはいえ、始めてのひとり海外旅行ではとても緊張していたようです。初めての晩、クタの HOTEL での事。歯をみがきだすと泡のすごさに「ウンやはり Bali の水はちがう!!」とわけのわからない事を考え、それにしても泡がホイップクリームの様になり「??」チューブをよく見るとそれは洗顔フォームでした。夜中に HOTEL でひとり大笑いをしている人がいたら、洗顔フォームで歯をみがいている疑いがあります。そして Ubud へ。何日も日本語を話す相手もなく意気消沈していた私なのですが、伊藤さんに会い、いろいろ話をさせていただいている内に、何だかみょうにリラックスしてしまい「Ubud には伊藤がいるから何があっても大丈夫」と大船に乗った気になり、

俄然元気を取り戻してしまいました。

大きくて、持ちきれないほどの、わけのわからない感動をやっと家に持って帰った私は、すぐその夏に主人の義之と Ubud を再訪し、'92~'93年の年末年始、'93年の夏と4回連続で通いました。その中で伊藤さんはいつもいろいろな話を聞かせていただき、Bahula 氏、Cok 氏、その奥さんの Jero さんとだんだん親しみを深めていきました。4回目の訪問の時に、Bahula 氏の、その空き地に将来コテージを建てたいという夢と、私達の Ubud に家を建てたいという夢が自然に出会い、話がパッとまとまってしまったのです。この計画を進めていく時に、私達と Bahula 氏の間でいろいろと助けてくれたのが、Cok 氏と Jero さんでした。Jero さんは日本人であり Ubud の花嫁。2人共日本語、インドネシア語の両方を話し、Bahula 氏も2人の事をよく知っていました。何しろ私達はお互いの習慣や好みについて何も知らないも同然だったのですから、できるだけちゃんと気持を伝え合う事は重要でした。私達は何をおいても Bahula 氏、Cok 氏、Jero さんそして伊藤氏の4人に感謝してやみません。

さて、伊藤さんより「Ubud にこれから家を造ろうとしている人に何か伝えて下さい…」という事だったので…。

この家は'94年4月（一部5月末）に建ちました。でも私達は努力らしい事は何もしていません。いろいろな条件は自然にととのっていただきました。私達には今紹介した4人を含めてたくさんの素敵な友達が Ubud にはいます。私達に言えることと云ったら、そのみんなや Ubud がとても大好きで、Ubud のすばらしさが（まだ知らない事ばかりですが）永遠に続いて、みんながとても幸せでいられ

て、その中に私達も仲間入りしたいと強く強く思っているという事です。この家が建つことで私達だけでなく、まわりの人達もそれぞれに自分たちの夢に向かって満足できる方向に、ゆっくりと進んで行くきっかけになればいいなあと思っています。

家を建てるとなれば、大家さんの側では、知り合いの外国人が自分の土地に家を建てるとはいえ、何か変な事になりはしないかと心配もすると思います。建てる側もこれだけお金を出したのだから…と心配する事もあると思います。でもどちらがどれだけのものを提供しようと、心配する気持はお互いにフィフティー・フィフティーだと思います。ただ気持はフィフティー・フィフティーでも、何といても外国から好きで Ubud に来て、ここに家を建てさせてもらうのですから、実際の工事などの慣習は必ず 100% Bali 流で行うべきだと思います。ましてや建てる当人は工事中日本へ帰ってしまうとなれば、話し合いの後はずべておまかせして、あとはのんびりと待つのみです。たとえどの様に進行して行こうと、心配などせずに、のんびりと完成した家をイメージして、ただただしあわせにふけるのです。これはテレパシーとなってすぐ Ubud に届きます。

私達の家は、バルコニーからの眺めがそりゃあ素敵です。朝夕には小鳥やリスの親子やちようちよがたくさん顔を見せます。夜はもちろんたくさんホテルに会えます。そしてこの家の造りのところどころに Bahula 氏の思い入れが感じられ、彼もこの家の建つ事を楽しみにしてくれていた事を感じました。Bali の家には、Bali 流のドアのサイズ、部屋のサイズ、階段に好ましい数、ベッドの向きなどいろいろな独特の造り方がある事を教えられました。これは興味深い事なので、又もっと教えてもらいたい

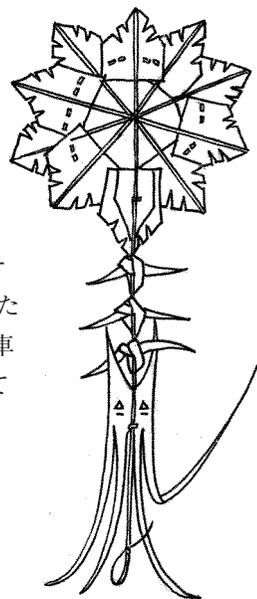
と思っています。

Bali 旅行が好き、から Ubud 滞在が好き、になり Ubud に住みたい、家を建てたいになってきました。今はまだ年に 2~3 回の短期しか住めない家なので、はじめから使わない時はレンタルできるように建てました。もちろんすべて Bahula 氏にまかせています。彼は私達に「次はいつ Ubud へ帰ってくるのか?」と聞いてくれます。私達は Ubud の家に帰る事ができるようになったんです。この家の小さな Bali 流キッチンを通して Ubud の人の日常生活に触れることも多くなりました。はやく本当の Ubud の住人になりたいものです。

私はいつもこう考えます。頭(心)の中にほんとうにはっきりと思い描ける夢は必ず実現する。はっきりと思い描けた時には、もうすでに心の中には家が建っているのですから。いつもいつも考えてい

れば、今できる事やるべき事がきつとみつかり、その時期を感じる事ができるはずだと。以前から私達は世界のどこかに必ず住みたい所がみつかると思っていました。それが Ubud に通い出した頃から、いろいろな歯車がどんどん自然に合っていく様になりました。

そして、Ubud に家が建ったんです。





## 白昼、星をながめる?!

その対策と方法…

バリ天文教育センター主任講師：青木 満

### 1. 星座の歴史と南天星座の誕生

星座がいつ頃、どこで生まれたかということは、いまだ確定的なことは判明していない。ただ一説によると、いまからおよそ5万年ほど前の、スカンジナビア半島のある洞穴内で、北斗七星やカシオペア座らしき星座をかたどったものとおぼしき壁画が発見されている。もしこれが本当に古代の星座を表したものだとなれば、星座の歴史が根底からくつがえされることになる。なにしろ、星座というものが、我々新人（ホモ・サピエンス）登場とともに発明されたことになるからだ。

現時点では、一般的には、およそ5千年前の古代メソポタミア地方（古代4大文明の舞台のひとつ、ティグリス・ユーフラテス両川にはさまれた地域）が、星座の誕生の時期と場所とされている。

遊牧民であった古代のカルディアの人々が、羊の番をしながら、夜空に散らばる星々を結び付け、身近な動物や神話に出てくる神々や人物に見立てたことがはじまりとされている。人間の習性というのは不思議なもので、古今東西を問わず、点在する点と点を結びつけて、なんらかの形を描き出すという行為が、共通に認められる。その形づくられる星座は、民族ごとに独特なものではあるが、ただひとつ、どの地域においても共通して見られることは、太陽の通り道（黄道）上に位置する星座が特別視されており、たとえ他の星座はまだ確立されていなくとも、この黄道の星座たちだけは、いずれの地域でも早い時期から登場している。これが、今日「黄道12星座」とよばれているものの原形である。さらには、これらの星座は各地域とも、ほぼ同じように描かれてい

る点は注目されるだろう。

星座の話というと、まず思い浮かぶのがギリシャ神話やローマ神話を題材にしたものがあげられるだろうが、意外や、これらの地域での星座の歴史はわりと浅く、古代の北アフリカに一大強国として君臨していたフェニキアが、大ローマ帝国に屈した際に、さまざまなものとともに現在の星座の原形ともいえるものがヨーロッパ諸国に伝わり、これとギリシャやローマの神話とが結びついたものである。したがって、今日マイナーな扱いを受けているエジプトや中国などの星座と比べたら、ずっと歴史が浅いものなのである。

今日、私たちが用いている星座は全天で88あり、そのうち黄道12星座を含めた48の星座が、2世紀にアレキサンドリアの大天文学者クラウディウス・プトレマイオス（別名トレミー）が集大成して、その著書『アルmagest』にのせたものである。“トレミーの48星座”と称されるもので、これが今日の星座の骨格となったのである。

その後は、なんと17世紀初頭にいたるまでの永きにわたって、キリスト教による近代科学への弾圧を受け、天文学をはじめ、あらゆる科学分野の進歩が停止した“暗黒時代”を迎えてしまうのである。もっとも星座の方は、とりあえずのところはトレミーの48星座だけで必要にして十分だったといえる。ところが、大航海時代を迎え、南半球への航路が確立すると、困ったことが起きてしまった。船が南へと進路をとるにしたがって、南の地平線からいままでもヨーロッパでは見たこともない新たな星々が昇ってくるではないか。当時の航路が、昼間は太陽、

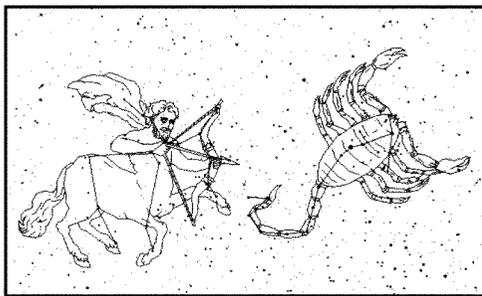


夜は星の位置を基準とした、もっぱら天文航法にたよっていただけに、はじめてお目にかかる南の星々の知識がゼロでは、どうにもならない。そこで北天の星座のように神話や英雄の武勇伝、ヒーロー、ヒロインのロマンスがどうのと、呑気なことなどいっているヒマもなく、突貫工事よろしく、手当たり次第に身近な道具や当時としては最先端の航海に使った測量器具、南国でははじめて出会った動物や魚、鳥などを、手当たり次第に星座に奉りあげてしまったのである。しかも、星の配列からその名にふさわしい姿を描き出すことも不可能なようなものが大半なのだから、なおさらやっかい極まりない。

これが、今日“南天星座”という別枠で呼ばれている星座たちの実体である。8月下旬、日没間もない西の夕空に今まさに沈まんとしている南十字星（みなみじゅうじ座）などは、南天星座の中で、例外中の例外的に、わかりやすい星座といえよう。

なお星座全般にわたる歴史の流れとしては、キリスト教による弾圧が弱まった18世紀から今世紀初頭にいたるまで、まるでせきを切ったがごとく次々と星座が新設され、さらには、各天文学者ごとにめいめい勝手に粗製濫造したために大変混乱した“星座戦国時代”を迎えてしまった。

この事態を打開し、万国共通のものを制定するため、1930年に開かれた国際天文連合総会において、今日見られる88個の星座に落ち着いたのである。



## 2. 天の川、いかに下り

夏のよい空は、全天をグルリと取りまく天の川の中でも、もっともすばらしい天の川の中心部を堪能できる。日頃日本の夏場では、南の空低いところにかろうじて見えている天の川の中心部が、ここバリでは、まさに頭の天ぺん（天頂）近くにまで昇って見えるのである。絶景地にかこまれたアユン川のラフティングもすばらしいが、“星界のアユン川”天の川のラフティングは、筆者はじめ、星好き人間に

としては、こたえられない醍醐味である。ここバリでは光害の影響にさらされることなく、夜空にまるで雲の帯をまきつけたような、大変すばらしい天の川の勇姿を楽しめるのである。

目が暗闇になれてくると、天の川の川幅が一様でなく、天頂近くのところが、ひととき川幅が広く、かつ明るい光芒を放っていることに気がつかれるだろう。ここが天の川の中心部。星座でいうと、いて座付近となり、天の川の中に北斗七星によく似た、ただし一つ星の数が少ない小さなひしゃくの形が浮かび上がってくるだろう。これが南斗六星と呼ばれているもので、北斗には死神が住んでいるのに対し、この南斗には生き神様が住んでいるとされている。ちょうど、バロンとランダとの関係と同じように見られている。ただし、この南斗六星、星座名ではなく、北斗七星がおおぐま座の一部分であるように、いて座の一部分である。いてとは弓を射る人のことであるが、星座絵の方では、上半身が人間、下半身が馬の姿で描かれており、一般的には乱暴者のケンタウルス族の中では唯一温厚で、弓をはじめとしたさまざまな武術、芸術、医学、天文学に秀でた、天才ケイロンの姿とされている。ケイロンの弓矢の先には、天の川の対岸に大きなS字型を描く、夏の星座の王者サソリ座が、満天の星空におおいかぶさるように昇っている。いま、もしこのいて座のケイロンが矢を放ったとすると、その矢はピューッと星空を飛んでいって、ちょうどサソリのおしりのあたりに突き刺さる見当になろう。するとサソリは「いて！」と鳴き叫ぶのではないだろうか…？

さて、お楽しみの南天星座だが、位置的にはこのサソリといての南側に、コンパス、じょうぎ、みなみのさんかく、くじゃく、ほうえんきょう、ふうちょう、はちぶんぎ、インディアンなどという、風変わりなものがあるのだが、前述の通り、どれも名前と星の配列とを一致させることが困難であり、また明るく目立つような星もほとんどない領域のため、とてもこの限られた誌面での紹介は困難である。これらの星座についての詳しい解説は、当センターの『バリ島・星空ツアー』にご参加いただくか、当センターより近々刊行される『バリ島・星空散歩道・サマー編』（仮題）を参照いただきたい。

さて天の川の正体だが、我太陽系が属するうず巻き型星雲「銀河系」を内側から見たもので、この銀河系は横から見ると凸レンズ型をしているため、そ



のふくらんだ中心部であるサソリ座からいて座にかけての天の川は川幅も広く、ひときわ明るく見えるのである。天の川が無数の星の集まりから出来ていることを最初に発見したのは、中世イタリアの大天文学者ガリレオ・ガリレイである。さらに天の川を詳しくながめていくと、川の中州のように、黒っぽい模様が複雑に入り組んでいる様子が見てとれるだろう。これはそのものズバリ“暗黒星雲”と呼ばれるものだが、その部分に星がないのではなく、銀河の手前の宇宙空間に漂う不透明な濁った星間ガスが、背後に輝く透明な星間ガスの輝きをおおいかかしているためである。天の川中心部以南は、日頃日本からはごく一部分しか見えない領域のため、バリ島滞在中に存分に味わっておこう！

### 3. 白昼、星をながめるには…？

さて今回のメインテーマだが、はたして白昼に星が見えるものだろうか（もちろん、プラネタリウムではなく、ホンモノの星が）。では逆に、「なぜ、昼間には星が見えないのか？」このことを先に考えてみよう。

実は星々は昼間もちゃんと輝いている。しかし日中は太陽の強烈な光が地球大気によって上空で散乱するため、たとえ1等星といえども、星々の光は太陽の散乱光の中に埋もれて、かき消されてしまうのである。その証拠として、大気のない宇宙空間では、太陽と星々が一緒に仲良く輝いているのである。

では大気のある地上で、どうすれば白昼に星をながめることができるのであろう。確かに皆既日食中なら、いくつか明るい星々は見られる。読者の仲にも“世紀の大日食”とさわがれた’83年のインドネシア日食のことをご記憶の方も多いのではないだろうか。しかし、いま問題としているのは皆既日食中のことではなく、ごく普段とかかわりない日中でのこと。天体望遠鏡を使えば、たとえ日中でも、いくつか明るい星を認めることはできるのであるが、いま筆者が提案しているのは、肉眼でという条件である。はたしてそんなことが可能だろうか？

実はこの難題に、NHKの科学番組『ウルトラ・アイ』が挑戦しているのである。事の発端は、「白昼、空井戸の中から星をながめた…云々」という古文書が見つかったことにはじまる。いくら「ものは試し」とは言っても、太陽がギンギラギンに輝く野原にただっ立っていたのでは、その強烈な光の一撃で見えるものも見えなくなってしまう。そこでNHK側としては、空井戸

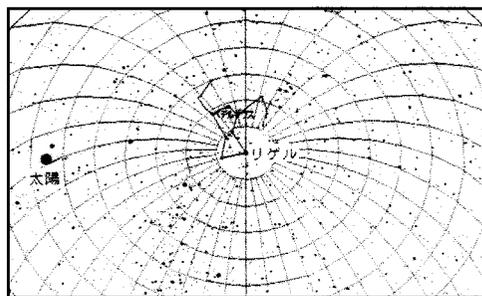
とはいかないまでも似たような構造である煙突を利用して実験開始。つまり、「まわりを暗くかこまれ、天頂付近のみ空がながめられる条件で、はたして白昼、肉眼で星が見られるものだろうか？」というわけだ。したがって、実験対象となる星は、天頂付近を通過するものに限られ、なおかつ、少しでも明るい星にこしたことがない。天頂を通過する星は、その観測地の緯度によってかわってくるのだが、NHKの実験では宮城県内で、こと座のベガ（七夕の織姫星）という1等星で実験が試みられた。

さて結果だが、実験当日は天候などの影響もあり、必ずしもはかばかしいものではなかったように記憶しているが、後日、筆者の友人が挑戦したところ、青空のもと、小さな白点がポツリと検出されたとのこと。

ここバリでは、ベガは天頂を通過することなく、はるか北の空を通るため当実験には使えない。しかし、バリにもチャンスがあった。コンピューター・シミュレートしてみると、冬の星座の王者、あのオリオン座の足元に輝く1等星リゲルが、このバリ島ではドンピシャ天頂を通過するのである。リゲルの明るさの方も、全天で21個ある1等星の中で第7位という“優等星”。

実験にふさわしい時期としては、太陽から適度（約60°）に離れた、4月10日午後4時20分頃。もしくは、8月10日午前8時20分頃を狙ってみよう。もちろん、前後数日間は十分チャンスがあるが、リゲルが天頂にやって来る時刻は、1日毎に約4分早まることに注意が必要。

今年は、春の陣のチャンスは過ぎ去ってしまったが、夏の陣にはぜひ、自分の目で挑戦してみようではないか！



< Notice ! >

ただし筆者自身は、今日現在、約2年半のバリ島在住期間内に、当実験に敵した空井戸もしくは、煙突をバリ島内で見かけたことがいまだにありません。あしからず…。



## ひとりのワヤン

T.Y.

おれがそのころ常宿にしていた小さなロスメンに、一月ぶりで日本から帰ってくると、見慣れぬ長身のバリ人がいた。名前はワヤン。数日前から働きはじめたという。出身は西方のヌガラだった。20才くらいの二枚目。口調がソフトで笑顔がさわやかでいいやつだとおもった。

昼間おれが部屋でボーっとしているとき、よく昼食のナシ・ブックスを買ってかえるワヤンを見掛けた。外出には愛用の自転車をつかっていた。朝市にフルーツなどの買い出しに出かけるのも自転車だった。

寡黙な方だから、あまり世間話はしなかった。ある日、おれがよくいくレストランにヌガラ出身の女の子が新しく入ったという、目を輝かせて、どこのデサ（村）なのか今度きいてみてくれといった。ワヤンがおれに頼みごとをしたのはそれが最初だった。もっとも頼みごとというには些細なことだが。おれはその子から出身地を聞いてメモした。ワヤンにデサの名前を教えると、じゃあ今度いったときには自分の出身地を彼女に伝えてくれといわれた。共通の知り合いがいるだろうからということだった。しかしその子はすぐに店をやめてしまい、伝えることはできなかった。

バリに戻ってから10日ほどして、おれはもっと安い宿に移ることにした。それからワヤンに会うこともなくなった。

ある日朝食用のパンを市場で買っていると、偶然ワヤンに会った。宿に泊まっている日本人の女の子を案内していたらしい。その子はバリは初めてで、金の面で騙されたり、いきなり愛を告白されたりしてまいっていた。ほかに話す友達もいなくて、ときどきワヤンと一緒におれの宿に遊びに来るようになった。ワヤンの生活

にも変化がきたとおもった。

ワヤンは orang malu だから、自分からはいわなかったが、その子を通じて、ひとつだけ頼みごとらしい頼みごとをした。彼は浜田省吾のテープを持っていて、とくに「もうひとつの土曜日」が好きだった。その歌詞を教えてくださいということだった。その女の子はインドネシア語ができなかったし、浜省の歌をあまり知らなかった。「いまちょっと忙しいから、そのうちちゃんと書いてあげるからってワヤンにいった」とその子にいった。

彼女はその後日本に帰った。お金がなくなったから、日本で働いてまた来るといっていた。おれがワヤンと会う機会もまたなくなった。

そのワヤンが病気になった。彼女も急遽日本から戻ってきた。デンバサールの病院に入院したワヤンを、彼女はつきっきりで看病した。日本と医療事情が違うから、彼女のストレスもおおきい。彼女やワヤンと親しい友人夫婦と、ワヤンのこと、彼女のことをあれこれ心配した。しかしおれは何もしてあげられなかった。12月のはじめ、おれは日本に帰った。

2週間ほどして彼女から手紙がきた。故郷のヌガラの村でワヤンの火葬も出した、気持ちの整理がついたら帰国すると書いてあった。

ワヤンのことを書いて、彼女がワヤンを思い出して、また悲しむことだけは避けたいとおもう。けどおれはこのことを書きたかった。おれは、「もうひとつの土曜日」の歌詞を書いて、ワヤンに渡してあげられなかったことをまだ悔やんでいる。

Toko ◇ BEST 店

Bali Trand

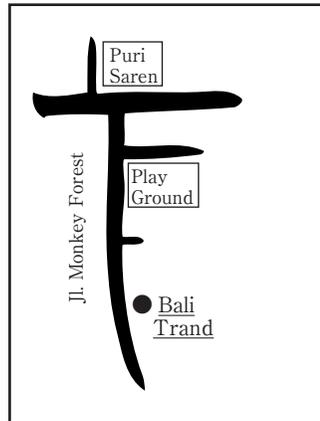
最近、UBUD にもなかなかおしゃれな店が増えてきました。JL. モンキーフォレストをジャランジャランしていると、思わず入りたくなってしまふブティック、「Bali Trend」です。KUTA にもお店を出しています。

まず目に入るのがセンスのいいウインドー・ディスプレイ。お店のコンセプトは”ナチュラル”で、生なりや茶系のカラー・コーディネート、そして綿や麻で統一された素材のよさは、ちょっと他のブティックとは一味ちがいまっせ、てな感じで、とても新鮮なのです。

服のデザインはシンプル&大胆で特におしゃれなヨーロッパ人に人気です。帽子、バッグ、靴、と小物も豊富で、なんと服は2日、靴は1日でオーダーメイドができるそうです。

UBUD のライス・テラスの見えるバリ風コテージのバルコニーで、この「Bali Trend」の服を着て、そよ風に髪をなびかせながら絵ハガキでも書いて…う〜ん、バッチリ絵になりますねえ。商品開発にも力を入れていて、ココナツのカラで作ったスプーンなどの雑貨もバグース。とにかくのぞいてみてください。

Monkey Forest Street Ubud, Bali, INDONESIA

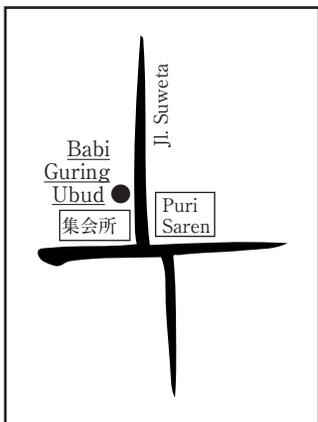


Warung ◇ 味な店

Babi Guring Ubud

でました!! バリ島名物、バビ・グリーン。ブタの丸焼きです。ふつうはバリ人家庭のウパチャラ(儀式)の時、よくお目にかかるのですが、脂身ばかりの肉と、毛のはえている皮(!!)に、ゲゲッとされた方も少なくないのでは…?

ところがところがこの BABI GURING UBUD のワルンのバビ・グリーンは、なかなかのモノです。ほどよく塩味のきいたあっさりした肉と、パリパリの皮と、野菜の料理が、ホカホカごはんの上ののってきます。腸づめのサラミのようなものもついていて、ここで食



べるとモリモリ元気が出そう。かつて、「バビ・グリーンはギャニャールのワルンに限る」と、地元の人々によく言われましたが、今やギャニャールをしのぐ人気。開店前からバリ人が列をつくるほどです。

営業時間はまちまちで、たいていお昼ごはんの時のみ開けています。

バリに来たらやっぱりバビ・グリーンを食べなきゃ…ね!!

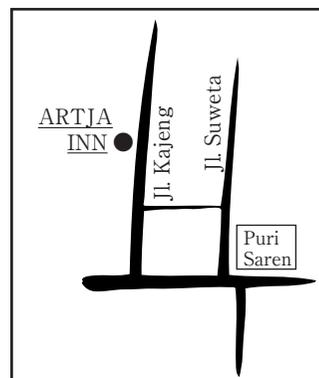
## 私の常宿

## ARTJA INN

夢想人

わたしのお気に入りの宿であるホームステイ ARTJA (アルチャ) はロータスカフェの横にある JL:KAJAN を 300m ほど入った左側にある。手前の右側に ARJANA という紛らわしい名前のホームステイがあるが間違えないように。今年 2 月に新しく門も出来上がり立派になった。門に入って家寺を過ぎると、両側に 4 棟の家がある、その 1 棟に一家族づつが住んでいる。総勢 22 名の大ファミリーがバリの家族生活を見せてくれる。一番奥に台所があり、それを過ぎると 2m ぐらいの段差で下における階段がある。降りたところに我々ツーリストの泊まるバンガローが 3 棟ある。1 棟に 2 つの部屋があり、全部で 6 部屋のホームステイである。一番手前の棟の前はジャングルになっている。二番目の棟の前は今年出来たばかりの池があり、ロータスが咲き、魚も泳いでいる。一番奥の棟の前は芝生になっている。わたしは、この目の前があまり開けていると落ち着かないので、いつも一番手前の部屋に泊まる。ここが一番気に入っている。そして ARTJA には、NYOMAN というウブドゥ・パレスで踊っている可愛い踊り子がいるので、それも ARTJA に泊まる大きな理由でもある。「百聞一見にしかず」是非一度あなたも泊まってみませんか。

ARTJA INN  
JLN Kajeng No.9 Ubud 80571, Bali, INDONESIA  
PHONE: (0361)96313



## Pesanan &amp; Kesan

## 旅人一声

ミュージシャン (1)

初めての外国旅行である。それも一人旅である。飛行機に乗ったのも生まれて初めてである。PM6:00、俺の乗っている飛行機が無事バリ島の空港に降り立った。興奮に胸を膨らませ「おれは、バリにきたんだ!!」と一声。そして胸をはり、両手を子供のように振って歩き始める。「あっそうだ! 名古屋の空港で預けた俺のバッグを返してもらわなくては」と飛行機にかけもどる。返りたくをしているスチュワーデスに俺のバッグのことを尋ねる。チャンブンカンブンな英語と心の動揺とで、スチュワーデスには俺が何を言っているのかわからなかっただろう。どうやらバッグはイミグレーションを出た所で返ってくるらしい。「あっそうか! そう言えばそんなことを友人に言われたような気がする」間抜けな俺。

イミグレーションの列に並ぶ、一番うしろである。嬉しくて顔が自然にほころんできてしまう。石の彫刻がいかにバリらしい(と思う)。あまりウキウキとしていたせいか、イミグレーションのおやじにチップをねだられる。いきなりカルチャー・ショック攻撃であった。少しは嫌な思いをしたが、これもバリだと一人納得。バッグを受け取り、出口に急ぐ。迎えの人々の向こうにヤシの木のシルエットが見える。「やった! ついにバリに来たんだ!」

これ なあ〜んだ?

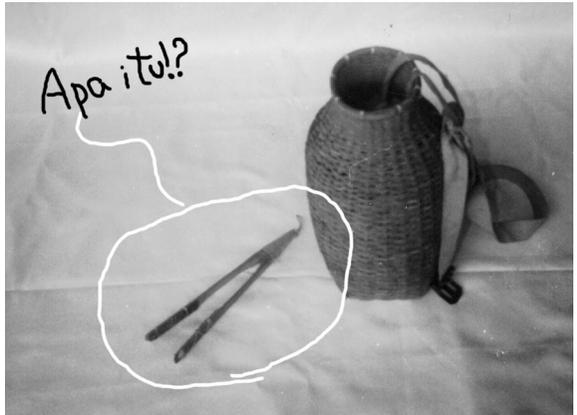
Apa itu?

ヒント = バリの人々はインドネシア語で Sepit(つかむもの) と言っております。何をつかむものでしょうか? 隣のカゴを参考にするとわかるかと思ひます。

解答 = どじょう(正確には田うなぎ) つかみの道具です。竹のさきに Bandil(バリ語) というとげのあるつる科の植物の皮を縛り付けてあります。

田に水が満々と引かれ、月が隠れる新月に近い日を選びバリの人々は、蜚の乱舞する暗闇の中をカンテラ(昔はランプ、今はストロキンク) をさげ、どじょうつかみ(Cari LINDUNG) に出かけます。雨が降るとどじょうが起き出して顔を出してきてつかみやすいそうです。時のには、蛙やたにしも収穫し、明日の食卓にのります。もちろん蛙も食べます。農薬の使われていない田には、豊富な自然があるのです。

どじょうはかつて貴重なタンパク源でありました。そして貧しい家庭にとっては貴重な収入源でもあったようです。今ではどじょうつかみは娯楽の一つのような感じも見受けられます。料理方法はゴレンにします。バケツにいれたどじょうに塩をかけます、すると苦しさでのたうちまわります。弱ったところで、煮えたぎった油の中に放りこみます。どじょう達は体をからませ断末魔の姿でカリカリにフライされます。酒のつまみには最高なんです、どじょうの顔が可愛そうでどうも女性には人気がないようです。どじょうのラワール(バリ料理の一種) もおいしいです。そしてどじょうは精力増強にはよいそうです。



## UBUD の環境を考える



UBUD を訪れるツーリストの多くが「ゴミの山をよく見かける」と言っでは嘆き、またリピーターのツーリストは「UBUD もだんだんと俗化してきた」と言っでは嘆く。

これは我々ツーリストの責任でもある。しかし、これはしかたがないことなのかもしれません。また、しかたがないと言っではおれない問題なのかもしれません。俗化がイコール近代化なのかわかりませんが、UBUD も遅かれ早かれ近代化はされることになるでしょう。我々ツーリストはできれば UBUD が UBUD らしく近代化されることを願っではいるだけです。そして UBUD の人々の精神には UBUD らしさの How How がそなわっではいると信じています。

ゴミの問題は我々がこれから少しづつ気をつけていかなくではならない当面の問題です。いつまでもこの島が美しくあることを望むならば、我々はこれからいかに関わっではいべきかを考えなくではいけないと思ひます。日本で身近に起っではいる環境の問題を BALI に置き換えてみるだけで、

きっと BALI の環境の悪化を少しでも遅らせることができると思ひます。このコーナーはみんなで UBUD の環境について考えてみようというコーナーです。何かを変えようということではなく、UBUD の人々にできるだけ邪魔にならないようにするにはどうしたらよいか。とっではい UBUD に来るなど言わっでは困っではしまうのですが、どんな内容でもかまいません。みなさんのアイデアをどしどし投稿してくださいます。

今回のキャンペーン・キャッチフレーズ < UBUD にゴミを持ってこない事! >

## その他のニュース

### ■ペスタ・スニに日本のガムラン・グループ出演

Undangan  
Pesta Kesenian Bali  
Tahun 1994



6月27日、デンパサールのアートセンター屋内劇場にて日本のゴンググループ "Kembang Sakura" (今回のバリ公演のために編成したグループと聞いています) が出演しました。

PM8:00 開演、民族音楽学の皆川厚一氏が

リーダーとするサクラ・ジュブンの演奏が始まりました。ほとんどが女性の演奏者でしたが、なかなか力強い演奏で観客(半数近くが日本人、残りがバリ人)を魅了しました。踊り手もこれが日本人かと思うほど熟練していて素晴らしい踊りを披露してくれました。今回のメインの出し物である、脚本・演出浜中洋美さんのオリジナル舞踏劇「おろち」は、踊りはもちろん素晴らしかったですが、コスチュームがファッション・ショーかと思ってしまうほど創造的でまた

美しいものでした。ダラン(語り手)の梅田英春氏がインドネシア語で語りをしてくれたおかげで、バリ人の観客も理解することができ、また梅田氏のユーモア溢れる語り会場を盛り上げたようです。そしてもう一つ忘れてはいけないのが、侍女を演じた女性のバリ語を交えての演技がいっそう花を添えていたようです。UBUDからはるばるでかけた田舎者達は興奮の余韻を胸に家路につきました。

### ”Kembang Sakura” Kembalikan Bali?

APRESIASI terhadap seni tari Bali, ternyata tidak hanya dilakukan oleh masyarakat Bali. Seniman-seniman luar negeri pun tak mau ketinggalan. Seperti yang terlihat pada hari ke-17 penyelenggaraan PKB XVI di Gedung Ksiranauca, sebuah grup tari Bali dari Tokyo Kembang Sakura, kemari malam berhasil mempesona penonton



DRAMATARI - Salah satu adegan dramatari yang ditampilkan grup Kembang Sakura di gedung Ksiranauca, Seniman (17/6).

### ■日本国病院に入院中の UBUD 病患者的の皆様へ、熱帯の島バリ「人間回復センター・UBUD 本部」より <暑中お見舞申し上げます>

UBUD 病患者的の皆様には「極楽通信・UBUD」を必ず読み続けることをおすすめいたします。また重病患者の方は毎食後 30 分以内に読まれることをおすすめいたします。「極楽通信・UBUD」は一服の精力剤!いや間違い、清涼剤!(ジャムーじゃないんだから)

こんなこと書いてから気がついたのですが、日本は広く、北は北海道から南は沖縄までなんと?キロもあります。快適な夏をむかえる土地もあれば、常夏の土地もあると思います。一律に暑中見舞とは少々まずかったかなと考えましたが、Tidak Apa Apa 時候の挨拶ということでお許しを願うことにいたします。

こちら UBUD は赤道直下というのにたいへん過ごしやすい気候です。日中の外を歩くとちと暑いかもしれませんが、それも日陰にはいればバグースの涼しさです。夜ともなれば肌寒く、考えられないかもしれませんが、オートバイ乗りはもちろん自転車乗りも、厚手のセーターかジャンパーを着用しないと寒

pi sebagai bintang tamu, yang berpasangan dengan Haguaki Matano dalam tari Oleg Temu-tilangan. Menyunggu gerak tari Bali yang mereka bawakan, salah seorang penari yang sempat diwawancara mengaku perlu waktu yang relatif lama untuk bisa menemukannya. "Tari Bali memang sangat sulit, karena gerakan pada tari Bali melibatkan seluruh tubuh. Seperti mata, mimik muka, kaki, tangan, bahu, leher sampai pinggul, dan juga tari Bali ini sangat dikendalikan oleh sentakan tangan tersebut bukan dari negernya sendiri. Kekurangan-kekurangan itu bisa dilihat dalam segi penjiwaan sehingga kurang menampilkan karakter yang pas. Sementara dalam tubuh juga masih ada kelemahan. Tokoknya bagi yang jeli akan merasa ada kekurangan, walaupun kekurangannya itu sangat sulit kita lihat. Hal ini disebabkan mengingat tabuh dan tari Bali dibawakan dengan sangat sempurna," papar mantan guru SMKI itu. "Malahan mereka membawakannya dengan sangat lengkap."

Menungkapkan, kesempurnaan ini bisa dilihat dari tari Legong Kraton yang dibawakan secara komplit. Pendapat senada juga diakui oleh I Nyoman Sumarsa, yang berkesempatan tam-

berpandangan dengan Haguaki Matano dalam tari Oleg Temu-tilangan. Menyunggu gerak tari Bali yang mereka bawakan, salah seorang penari yang sempat diwawancara mengaku perlu waktu yang relatif lama untuk bisa menemukannya. "Tari Bali memang sangat sulit, karena gerakan pada tari Bali melibatkan seluruh tubuh. Seperti mata, mimik muka, kaki, tangan, bahu, leher sampai pinggul, dan juga tari Bali ini sangat dikendalikan oleh sentakan tangan tersebut bukan dari negernya sendiri. Kekurangan-kekurangan itu bisa dilihat dalam segi penjiwaan sehingga kurang menampilkan karakter yang pas. Sementara dalam tubuh juga masih ada kelemahan. Tokoknya bagi yang jeli akan merasa ada kekurangan, walaupun walaupun kekurangannya itu sangat sulit kita lihat. Hal ini disebabkan mengingat tabuh dan tari Bali dibawakan dengan sangat sempurna," papar mantan guru SMKI itu. "Malahan mereka membawakannya dengan sangat lengkap."

Pergelaran dramatari yang berlangsung ke-Fol. 15, Kol. 4) (BERSAMBUNG ke-Fol. 15, Kol. 4)

くてたまりません。冗談だと思いかもしれませんが、Pengosekanにある居酒屋・影武者では、店内の囲炉裏に火を入れる日もあるそうです。信じられない方はこの季節（7月、8月）にぜひ一度 UBUD を訪れてみてください。くれぐれも風邪をひかないように厚着をしていってください。あ～寒い寒い！バリは寒い！

### ■ DEWA BERATA 単身シスコへ飛ぶ！

5月25日、スマララティの名物男クンダン奏者の DEWA BERATA(26) が、アメリカのガムラン指導にサンフランシスコへ単身出発しました。彼の素晴らしい笑顔と手を高々とあげる華麗なクンダンの演奏が暫く見られなくなるのはたいへん残念ではありますが、彼にはアメリカでバリのガムランを広めるという大役があるのです。我々ファンとしては DEWA が無事役目を終えて帰国する日を待つことにいたしましょう。

23日、クトオのオダランでスマララティの公演がありました。バリでの演奏と暫くのお別れということがあつてか、どんなことが思い巡ったのか DEWA の目頭は熱くなり、こころなしか瞳が潤んでいるようでした。24日は出発に先立ち DEWA の家でスマララティのメンバーと仲間達が集まりお別れ会を催しました。DEWA のお母さん手作りのラワールをいただく前に、DEWA が神妙な顔でこんな挨拶をしてくれました。「僕はどこにいても、心はいつも皆さんと一緒にです。皆さんも僕の旅が安全であるよう祈ってください。」…（むむ、まるで永遠の別れのようなアイサツ）

出発日はちょうど満月、次2度目の満月の日に DEWA は帰ってきます。2ヶ月のアメリカ生活は彼にどんな影響を及ぼすのでしょうか。そのへんが楽しみなところです。

帰国の際は、「極楽通信・UBUD」の独占インタビューが企画されておりますので、どうぞご期待ください。



### ■ 憧れのバリで結婚披露宴！

1994年6月15日、名古屋のミュージシャン西岡英樹さん・ゆきえさんカップルが憧れの BALI・UBUD で結婚式を挙げました。といってもお二人ともバリ・ヒンドゥーではないので、正式な挙式をすることはできませんでしたが、Pengosekan の Gusti Sana さんの好意で Merajen（ムラジャン：トリワンサ階級の家寺の名称）にて Muspa（ムスポ：神への祈り）をすることができ、お二人とも幸せそうでした。

PM1:00、近くの Pura から Sana さんの家まで、ガルンガンの時に村をねり歩く子供達のパレガンジュールとバロン・バンガル（豚）、バロン・マチャン（虎）に先導され、バリの結婚衣装の盛装をしたお二人が神妙にまた幸せの充実をかみしめながらジャラン・ジャランしました。そのお二人の姿は、まわりで見ている人びとにも幸せを感じさせました。日本からかけつけてくれた友人達もバリの正装に身を包みジャラン・ジャランについていきます。ゆきえさんの盛装姿はこれぞ舞姫という雅びやかで美しいものでした。英樹さんの盛装姿もなかなかお似合いでしたが、本人は少々恥ずかしそうにしながら「写真はあまり他人に見せないように」とストップがかかってしまいました。しかしどうしたはずみか『極楽通信・UBUD』に出てしまいました。

Sana さんの家の中庭にはオダランなどでみかける竹囲いによる踊りのスペースが作られ、すでにスタンバイしているガムランがお二人を迎え、お二人の門出を祝うかのように優雅な演奏が奏でられました。ガム

ランは Pengosekan のレデース・ガムラン、イブ・イブ達の演奏です。そして踊り手も Pengosekan の子供達です。踊りはチャントニックな子供達がウエルカム・ダンス、パリス・グデ、マヌツ・ラワ、チャンドラワシそしてオレッジ・タムリリンガンと盛りだくさんでした。村人総動員の出演と観客です。たくさんの踊りのあと全員で記念写真。そして、Sana さんの家族が作ってくれたバビグリンとバリ料理に舌につづみをうち、村人達と歓談しました。村人達も村始めてのツーリストの結婚披露宴とあって好奇の目と娯楽の目で楽しんでいたようです。

「お二人が末永く幸せでありますようにバリの神様にお祈りしましょう。」



■怒りの鉄拳！

UBUD 病重症患者のいかりや長髪氏（年齢不詳）は、今回もまた怒りの発言をしております。次のような噂話を聞いて興奮し、夜も眠れない日々が続いているそうです。

その昔、趣味で絵を書いている子連れの夫妻が UBUD に滞在していたそうです。その夫妻の言うことに「バリの男がジーっと私を見つめる」と言っただけで怒り、「妙な日本語で話しかけてくる」と言っただけで怒り、「だからバリ人は嫌いだ」と大胆な発言をしていたそうです。十人十色バリの人々にもいろいろいます。いっしょくたにバリの人々を嫌いだという発言は、ちと言い間違いではありませんか。そのくせその夫妻は、彼等の嫌いなバリ人の住むバリをモチーフにした絵を書き、もってのほかなのはバリ在住をキャッチ・フレーズにして絵を売っていると聞きます。バリを利用したバリの人々を利用だけして、バリは好きだがバリ人は嫌いだといったのけるその心が私には理解できません。バリ人を嫌いだはないだろう。「バリの人々が嫌いならバリにくるな！」あ～めまいがする、また血管がきれそう。

うわっなんか その4 ほりり



【年間購読申込み方法】

エアメールで、その旨手紙をください。宛先は「影の出版会：伊藤」、住所は巻末の BALI 本部です。料金は、3,000 円。おろかえし申込み用紙と送金方法をお知らせします。また、お急ぎの方は、郵便振替用紙の通信欄に年間購読希望と書いて送金してください。振替先口座：00190-6-573859「影の出版会」です。

Name	Point	Address / Tel	
Semara Ratih	あのスマラ・ラティのリーダー、アノムそしてアユがコーチしてくれる。宿泊設備有。	Jl. Kajeng 25, Ubud Tel. 96277	ダンス、ミュージック
Puri Agung	プリアタンの王宮でも習えるのだ！ 宿泊設備有。	Peliatan	ダンス、ミュージック
Mandara	御存知、ティルタ・サリのご本家。宿泊設備有。	Peliatan	ダンス、ミュージック
Gunung Merta	日本語のできるババ・イダ・バグース氏が相談にものってくれる。宿泊設備有。	Andon Tel. 975463	ダンス、ミュージック
Nata Raja	STSI (芸術大学) 出身のワヤン氏は、マルチ・ティーチャー。	Jl. Sugriwa, No.20, Ubud	ダンス、ミュージック
Wayan Karta	カルタ氏本人はガイドだが、家族はダンサー・ミュージシャンが粒ぞろい!	Jl. Suweta, No.16, Ubud Tel.975730	ダンス、ミュージック
Sanggar Centil Cili	STSI 出身のメンバーを中心に、スタッフもやる気満々。気軽に習えます。	Pengosekan, Ubud	ダンス、ワヤン・クリッ
Dewa Berata	あのスマラ・ラティのクンダン (名物男!) 奏者。STSI 出身。お父さんから、4人の兄弟みんな音楽一家。	Pengosekan, Ubud	ミュージック
Gusti Sana	SANA 氏独特の、カエル百態、ちょっとエッチなタッチ。とてもやさしい先生。	Pengosekan, Ubud	ペインティング
Budiana	D. ボウイーも持っている、プディアナ先生の摩訶不思議な、エロティックなスゴイ絵、あなたも描けます。	Jl. Hanoman	ペインティング
Lantir	テガスのグヌン・ジャティの巨匠、パパ・ランティールが秘伝の技を伝えます。	Br.Tegas Kanginan No.53	ミュージック
Rino	一度観たら忘れられない、あの Tegas のケチャのワイルドマン、リノさんが教えてくれます。トベン、パリス、Bagus です。	Br.Tegas Kanginan No.50	ダンス

*Zwinnish*

Pengumuman

●お詫び●

今号、「人物紹介」「ももたろうバリ日記」「Enak Enak Ubud」は、作者の都合によりお休みします。楽しみにしていた皆様、ごめんなさい。この場を借りてお詫びいたします。

札幌に在住のバリ好きのあなた。ビールを飲みながらバリの事を語り合いませんか? 老若男女問わずどしどしご連絡ください。  
 連絡先: 〒062 札幌市豊平区平岸3条9丁目8-19 スクエア39-301 八巻佐登美(やまきさとみ)  
 TEL.FAX: 011-815-4069

■踊り子さん募集!

11月に結婚披露Partyを行います。そこでペンデットを踊ってくれる方を募集します。東京近郊在住、3~4名のグループで、なかなか人まで踊る機会がないという方、チャンスです!是非参加してPartyを盛り上げてください。

・問い合わせ/ポトマック(株)内 白猫めぐびーまで TEL: 03-3583-0801

・交通費負担、若干ですが謝礼をさせていただきます。よろびく!





Terima Kasih



発行人：伊藤博史

編集：伊藤博史 / Yumi S. / Mansha / 堀 祐一

エディトリアルデザイン：菅原恵利子

テキスト入力協力：白猫めぐびー

写真：伊藤博史 / 堀 祐一 / 菅原恵利子

カバーイラスト：熊谷 哲也

ロゴデザイン：Hiroko S.

インドネシア語監修：Rianto S.

極楽通信「UBUD」Vol. 4

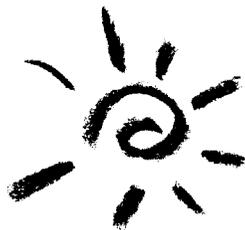
1994年8月25日発行

発行・販売：影の出版会

Hiroshi Ito: d/a Pak Wayan Karta Wigraha

Jl. Suweta No.16, Ubud, Bali,  
80571, Indonesia tel.(0361)96134

©1994 影の出版会 禁無断掲載





影の出版会事務局

- BALI 本部 Hiroshi Ito: d/a Pak Wayan Karta Wigraha Jl.Suweta No.16,  
Ubud. Bali, 80571, Indonesia tel.(0361)96134
- 日本連絡先 〒 106 東京都港区麻布台 3-4-4 Iikura Comfy Homes B-102  
ポトマック株式会社内, tel.03(3583)0801 fax.03(3583)0803